

No.180

公民館だより

令和6年3月
宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

公民館だより第180号を記念して

由良地区公民館長 千坂幸雄

由良公民館だより第1号が発行されてから第180号まで60年間、毎年3回の発行を重ねてまいりました。ここまで公民館だよりを途切れることなく発行できましたのは由良地区の皆様のご支援があったればこそできたことです。感謝申し上げます。

さて、今回は第180号発行を記念して、これまでの公民館だよりを10年ごとに振り返り、公民館だよりの意義について考えてみたいと思います。

第1号 昭和39年6月
○発行するにあたって

今までの公民館運動をより皆さんのものにして、より良い地区民の発展のために公民館活動の状況を連絡する機関誌として発行することにしました。将来は、この紙面を通じて意見の交換の場として発展するよう希望いたします。皆さん方のご協力をお願いいたします。

- 公民館運動とは
- 公民館組織
- 予算
- 行事計画
- 第33号 昭和49年7月
- 世論調査をかえりみて

公民館長 四方 寿朗

問4 年3回の公民館だよりをほとんど毎号読む 47%
たみに読む 37%
めったに読まぬ 5%
読んだことがない 9%

公民館だよりについては、「ガリ版印刷で読みにくい」、「もっと多くの人の生の声が出せるよう考えてほしい」という意見が多かった。

第63号 昭和59年6月
○第19回由良ヶ嶽登山

公民館主事 平間 克巳

今年は近年希に見る豪雪のため、安全を期して5月27日に実施した。私たちのために毎年登山道の清掃をしてくださる観光協会の80人の会員も当日は私たちよりも一時間も早く出発し、頂上まで清掃してくださいました。こうした観光協会のご奉仕のおかげで、無事できています。ありがたいことです。

○由良ヶ嶽登山 小谷 澄子
由良小学校校庭前9時集合、訓示の後、早速並ぶこともなく大塊で、また、三三五五出発、

由良国民宿舎裏側に立ててある「由良ヶ嶽登山口」「登山時間一時間一五分」の道標へ一歩足を踏み入れた瞬間……

○丹後由良駅からのお願い
丹後由良駅長 藤田清四郎

由良地区の皆さま、日頃は丹後由良駅のご利用ありがとうございます。最近の丹後由良駅の乗車状況ですが……
宮津線の廃止問題もございませう。

10月14日の鉄道記念日には、宮津線開通60周年を迎えて、臨時列車の運転……

○思い出 岩上松太郎
今生きていたら101才になる亡き父が、若い頃伊勢参りをした話をしてくれました。それによると、着物の裾をからげ、荷物は振り分けにして肩にかけ、わらじがけで京都までは歩いたそうです。第一夜は梅迫に泊まり、次の夜は殿田に泊まり、三日目に京都に着き、それから先は汽車に乗ったということでした。……

第93号 平成6年8月

○天気晴朗 全力前進

栗田中学校長 天野順一朗

○たくましく生きる力を

栗田小学校長 飯田 和子

○ご挨拶

由良婦人会長 大森婦美子

○ごあいさつ

由良幼小PTA会長

竹田 茂

○サークル紹介

舞踊サークル

囲碁同好会

川柳サークル

習字サークル

カメラクラブ

舞踊「かゞし座」

「大正琴」サークル

由良の歴史をさぐる会

卓球サークル

少林寺拳法

由良空手道教室

バドミントンクラブ

バレーボール

神心流詩吟同好会

○長塚節と「由良川」の短歌

中西 夏江

○忘れられない私の思い出

中西芳三郎

由良の歴史をさぐる会第1号

由良百年史を見て「明治40年由

良川大洪水復旧工事」の記事に

目がとまる。当時私が小学校1

年生の夏休みの出来事で：

第123号 平成17年3月

○これからの松寿会

山口 幸一

長い間、地域の人たちから親

しまれてきた「由良老友会」の

名称に代えて「由良松寿会」の

名称が誕生してから1年が過ぎ

た。名称を代えた理由、そして

今後どのように行動するのかを

考えてみたい。……

○戦下の清華園を思う

栞田まさ子

度々来日されている中国の胡

锦涛国家主席の母校が北京清華

大学であることをテレビで知り、

清華という文字に思わず「アッ」

と驚きの声を夢中であげていた

のです。戦下を清華園ですごし

た私は……

第153号 平成27年3月

○在職十年を振り返る

公民館長 枝川 隆亮

平成22年2月に自治学級を開

催、小学校再編問題・由良浜の

浸食・足湯の計画・府立大学の

演習・てんころレースの継続な

ど諸問題について討議をしてい

ます。

「空飛ぶ救命救急室」と言わ

れるドクターヘリがこの年から

運行開始……

○成人式を迎えて

○クリスマスケーキ作りに参加

して

○第32回宮津市卓球大会

○由良ヶ嶽登山証明書発行数

○「京の蘭方医」新宮涼庭（天保

年間）

新宮 涼輔

○短歌

○宮津市人権標語

○軽巡洋艦「由良」

京都丹後学会 坂本与一郎

巡洋艦のうち、軽巡洋艦には

川の名前をつけていた。

軽巡洋艦「由良」は長良型と

して大正10年5月21日、佐世保

工廠で着工、9ヶ月後に進水した。排水量5598トン、出力91軸馬力、速力35ノット……

以上、10年ごとに公民館だよりをのぞいてみましたが、皆さん、公民館だよりってどんなものだと思いますか。私は、由良の歴史そのもののように感じました。そして、文の続きを読んでみたくなりました。

由良の皆さん一人一人が由良公民館だよりの主人公です。由良地区のことで思っていることや思い出など投稿をお待ちしています。パソコンやスマホで「由良公民館だより」を検索していただきますとアーカイブとして1号から177号まで読むことができます。

※掲載されたお名前は敬称略で失礼いたします。



行事報告

主事 千坂 昌子

グラウンドゴルフ大会 (団体戦)

実施日 10月15日 (日)

参加者 35名

9時～11時

9時00分 開会式

天候は晴れでしたが昨夜来の雨によりグラウンド内には所々水溜まりが出来ていました。その水溜まりを避けたコースに6チームが参加しました。

どのチームも和気あいあい、で、少しくらいのミスはご愛嬌です。

ホールインワン賞も何人か出ました。終始盛り上がり、閉会式での成績発表では拍手喝采で賞状や賞品をお渡しして無事終えることが出来ました。

一位 ミマの会とお友達

二位 由良松寿会

三位 由良オリーブを育てる会



今後の課題

昨年は2組の親子参加がありました。公民館事業は、老若男女を問わず世代間交流を掲げておりますので、一人でも多くのご参加をお待ちしております。

由良地区文化祭

実施日 11月5日 (日)

参加者 160名

9時～16時

文化祭開催の準備は前日、11月4日(土) 午前9時～11時、公民館役員14名で会場設営(パネル、テーブル、チェア、白布等)を行う。

また、同日14時～16時30分、公民館役員8名、作品出展者23名で作品展示を行う。

文化祭当日の天気は晴れ。外は11月にもかかわらず時折暑い日差しがありましたが、体育館内は快適な温度が保たれ、来館の方々にもゆつたりと鑑賞していただけました。

展示作品の紹介

- ・幼稚園から中学生までの子どもたちの作品(絵画、工作等)
- ・写真クラブ作品
- ・生け花
- ・浜の路夕月サロン作品
- ・習字教室作品

・書道、絵画

・新宮涼庭紙芝居絵画

・由良の明治から昭和初期に使用した民具及び天橋立屏風



販売

安寿亭より

お寿司、きなこ餅、珈琲

はまなす苑

利用者さん、職員さんによる作品、野菜

販売品は午前中に全て完売の盛況ぶり、テーブルを囲んで

珈琲を飲みながらの団らん風景もありました。
住民の繋がりを作る機会と文化芸術への興味関心を育む大切な行事が役員の方々の協力によって無事終えることが出来ました。

子ども料理教室



実施日 12月17日(日)
参加者 46名
(内 子ども 22名)
由良地区子供会連絡協議会との共催により、子供会が主体と

なった活動が出来ました。

開催に際しましては食改の皆さまに材料の買い出しからお椀や箸の準備、餅米を蒸したりサラダを作っていたいただいたりと前日、当日にわたって大変お世話になりました。

さて、餅つき当日の子どもたちの様子です。

杵を持って臼で餅をつく班とつけた餅を丸める班に分かれて交互に全員参加して手際よく取り組めました。

配膳の準備にも取り組み、いよいよ食事会の始まりです。2升用意したお餅はぜんざいにして全部いただきました。

食事の後は片づけの手伝いをして、感想を書いたり遊んだりして過ごしました。

普段一堂に集まることのない異年齢の子どもたちと、その保護者が一緒に活動できたことに意義を感じます。

ふるさとを愛する心は楽しかった時間の共有からも生ずるのではないのでしょうか。

新宮涼庭紙芝居

実施日 12月17日(日)
参加者 58名
14時～15時30分
共催

- ・由良自治連合会
- ・浜野路自治会
- ・由良の歴史をさぐる会
- 協力

宮津市社会福祉協議会
11月3日に第1コミュニティールームで行われた紙芝居を新宮涼庭生誕の地で行って欲しいという要望を受け各種団体様の協力の下、開催されました。(セバーク由良1階に於いて)

卓球教室

実施日 1月26日～3月16日
回数 全6回(1月26日、2月3日、24日、3月2日、9日、16日)

場所 由良地区公民館2階

現在2回目が終わりました。毎回の参加人数が5、6名(役員除く)と寂しい状況です。冬場の戸外は気温も低く、体を動かすににくい季節です。そんな中、少し暖房をきかせた動きやすい環境で笑いながら、卓球で体を動かしてみませんか？

お一人でも顔を出してください。大歓迎です。



地域とともにある栗田学院

栗田中学校 教頭 田中章 二

由良地区の皆様には、日頃より、本学院の教育活動に対しまして、深いご理解と多大なるご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

栗田中学校には、平成二十七年四月に着任し、今年度で九年目になりました。九年経った今でも、栗田の子ども達は、「素直、真面目、一生懸命な子ども達」また、保護者や地域の皆様は、「とても学校に協力的で、理解がある」という思いは、全く変わっていません。本当に有り難いことだと、感謝の気持ちで一杯です。

栗田中学校も九年前に比べると大きく変化しました。その一つは、平成三十一年四月に「栗田学院」として小中一貫教育全面実施となったことです。現在

も幼稚園を含め、十年間を見通した連続性のある教育活動を行っています。そして、もう一つは、令和二年四月に、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）

の本格実施となったことです。学校運営協議会制度とは、学

校・保護者・地域住民が知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、協働しながら子ども達の豊かな成長を支え、「地域とともにある学校」を進める仕組みののことをいいます。

栗田学院の学校運営協議会は、今年で四年目を迎え、千坂幸雄会長（由良地区公民館長）と山本文雄副会長（栗田地区公民館長）を中心に、年七回の会議を行い、様々なことに取り組んでいます。

本年度の主な取組として、小

学校では、図書室の整備、読み聞かせ、七夕交流会、箏の指導、陸上競技の指導、ミシンの指導、水泳指導補助と監視、グラウンドの除草作業等。中学校では、資源回収、浴衣の着付け指導、陸上競技の指導、グラウンドの除草作業等の多くの取組をお世話になりました。

特に、図書室の整備を含む読書活動については、以前から力を入れて取り組んでいただいています。読書をするには主体的な行動力が必要となります。図書室の環境が整備されたことで、子ども達が図書室に行くのが楽しみになりました。図書室に行く子ども達が増え、自然と読書に親しむ時間も増えました。さらには、子ども達からの発案で、一緒に読み聞かせを取り組むまでになりました。学校運営協議会の取組で図書室の環境を整えたことが、子ども達の主体性の成長につながりました。

また、水泳指導は、身近な海に関わる取組をしてあげたいと

いう学校運営協議会の思いと、海で水泳指導を行いたいという学校の思いが重なり、実施することになった取組です。同じ水泳指導でもプールではなく海で行ったことで、ふるさとへの思いや自然の良さを感じることができたと思います。

中学校でも地域の方にお世話になり、浴衣の着付け等、普段はあまりできないような経験もさせてもらうことができました。学校運営協議会では、このように地域と学校が協働して、子ども達のより良い成長のために活動をしています。年数回発行する「栗田学院コミスクだより」でも活動の様子を地域の皆様にお伝えしています。

地域の力に改めて感謝し、今後栗田学院の教育目標である「未来を生きる心身ともにたくましい幼児・児童・生徒の育成」を目指し、教育活動に邁進していきます。これからも地域とともにある栗田学院をよろしくお願いたします。

由良地区における防災について

由良自治連合会 会長 濱本喜彦

令和も6年となりました。由良地区においては昨年暮れの火災の発生や正月元旦の能登半島大震災など、いろいろ考えさせられる事象が立て続けに起きるにあたり、改めて防災への対応を考える今日この頃であります。

さて、由良地区には先輩方が残してくれた『丹後由良の史跡』(平成23年(2011)1月由良地区公民館発行)という由良及び丹後地方の歴史を詳しく編集した貴重な資料冊子があります。

この資料から『丹後大震災』が起った年代だけを拾い出してみると、937年・1022年(周期85年)、1475年・1496年(周期21年)、1654年(周期158年)、16



60年(周期6年)、1662年(周期2年)、1729年(周期67年)、1786年(周期57年)、1847年(周期61年)、1927年(周期80年)、というようにに我が丹後地方においては残念なのですが周期的に今回我々が目撃した能登大震災クラスの

地震災害が繰り返し起こっていることがわかります。つまり私たちは明日にでもこれらの災害(水害も含みます)に見舞われる覚悟を持って日々を過ごしていかなければならないということを先輩たちが教えてくれています。

さらに加えて、年末の火災発生時に起こったいくつかの問題点の報告を各地区の自治会長から受けていますし、その後発生した地震発生後の津波回避のための緊急避難先の問題点など、こちらにも併せて各地区の自治会長から指摘や提案を受けています。

こうした、地区の皆様からのお声を聴くにあたり、我々由良自治連合会として進めていくべき事は、緊急時における由良地区民の対応のあり方を整理し、これらをまとめて由良地区全体でその情報を共有することであると考えております。

例えば各地区、自治会防災計画の取りまとめを行い、由良地区全体の防災訓練などを率先し

て進めて行く。緊急事態発生時における速やかな由良地区民への情報伝達方法の確立とその周知をおこなっていく。地域の消防団員の声を聞きながら由良地区の自衛消防の強化をみんなで目指していく。

地区民生委員の声を聞きながら高齢者、特に独居高齢者の把握と緊急対応方法の確立を進めていく。

などなど、改めて数え上げると、見直さねばならない事がたくさんあります。

しかしながら、これらの課題を正面から一つずつ地道ではありますが、地域の皆様と共にひとつずつクリアしていくことが、今後の由良の活性化にもつながっていくのではないかと考えます。

以上、長々と書いて参りましたが、皆様の声があつてこそ実施できるものであると考えます。これからも皆様のご意見をお伺いしていきますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

子ども料理教室 「もちつき」の感想

もちつきや丸めたりできて楽しかったです。また、やりたいです。

もちつきが楽しかった。また、やりたいです。いろいろなことが学べてよかったです。

もちつきが楽しかった。丸めるのも楽しかった。ぜんざいがおいしかった。また、したいです。

もちをつく工程を知ることができました。またしたいです。

もちをつくのが楽しかった。お父さんがおいしいもちを作ってくれてうれしかった。

おもちが食べれてうれしかった。

た。おもちが作れてうれしかった。

みんなのでついたおもちがおいしかった。しるがおいしかった。ぜんざいがおいしかったけど、いっぱいあった。おもちをはかかったけどおいしかった。



去年した時よりもだいたいお時間を有効活用できたし、準備から片付けまでしつかりできた。

サラダがおいしかった。おも

ちつきが楽しかったし、おもちがおいしかった。

おもちがもちもちして、おいしかったです。おもちつきが楽しかったです。

もちつきをして、たたくのがおもしろかった。おもちがおいしかった。

サラダがおいしかったです。おもちつきが楽しかったです。自分たちでもちをつくのが楽



しかったです。

ついたもち米をぜんざいとサラダで食べたからうれしかったです。

ついたりこねたりして楽しかったです。ぜんざいがおいしかったです。

今日は、もちつきやまるめるのがたいへんだったけど、おもちを食べ、がんばってよかったなと思いました。

みんなといっしょにもちつきをして楽しかった。また、やりたい。

つくのがたのしかった。

おいしかったです。

たのしかったです。また、やりたいです。

還暦を迎えた

「公民館だより」一八〇号

飯澤 登志朗

幸せな年でありますよう祈りながら迎えた新年も大変な年明けとなった。

能登半島地震である。時間が経過し内容が伝えられると被害の大きさに驚く新年である。

地震で亡くなられた方々のご冥福と被害に遭われた方々にお見舞い申し上げます。

被害の全容も復旧の見通しも全く不明のなか生活を余儀なくされている地域の皆様の心境は如何ばかりか想像もつかない。

地震大国と言われる日本、阪神・淡路（1995）東日本（2011）熊本（2016）その他にも地震が発生しているが、

丹後でも大地震があった。昭和

2年（1927）由良でも住民が屋外での生活を強いられている。

由良青年団が最初に救助に駆けつけたり、由良消防団も救助に対する感謝状を授与されている。

これらの記録は公民館発行の

「由良の歴史年表」で見ることが出来るが、地区公民館が発足したのは昭和28年である。社会教育制度制定によりスタートし、由良地区の発展に寄与してきた。由良ヶ嶽登山やお盆の球技大会、秋には運動会や文化祭等々、これらの活動が認められ平成14年

には全国優良公民館として文部科学大臣表彰が授与された。

「公民館だより」もその活動の一つであり第1号は昭和39年（1964）でガリ版ずりであった。それから60年引き継がれている。

少子高齢化は顕著であり由良地区でも学校の統合もあり、地域活動にも当然変化があり、自治会運営にも影響が見える。公民館活動も以前のやり方では無理と思われるが、「公民館だより」は由良の歴史を将来に伝える大切な役目を担っている。公民館だよりに原稿を寄せられた方は地元の老若男女を問わず地域外からの投稿が見られるように多くの方々にも協力していただきながら今に至っている。

最近、活字離れで町の本屋さんが減少しているが高齢者はデジタル化には馴染めず、新聞

や雑誌が手放せない。しかし、日常生活ではニュース、情報収集、メール、辞書、電卓、果ては料理の作り方までスマホに頼っている。

生活には欠かせないスマホは常に手元に置く日常になっているが「公民館だより」がさらに充実した内容で継続されるよう願って止まない。



貴重な資料 『公民館だより』

山下 まさ代

昭和39年（1964年）6月に「公民館だより」第1号が発行されてから59年が経過し、今号で180号になるそうです。当初は手書きのガリ版印刷であり、一文字、一文字、思いをこめて鉄筆でガリをきり、労力と時間がついやされたのではないのでしょうか。公民館活動を広く地域の方たちに知ってもらい、活気ある地域づくりにつなげていきたいという思いから発行されました。

当時の「たより」を読むと教養部、体育部、図書部があり、それぞれ予算化されていました。図書部では四百冊余りの書籍と府立図書館と市立図書館合わせて五百冊ほどを、毎週金曜日に貸し出ししていました。また、毎年新しい本を予算から購入し冊数が増えていきました。

成人式が旧由良小学校で開催され、予算化もされていたことを知りました。

さらに、講演会や座談会、懇親会などが開催され、由良の未来を語ることをとても大切にされてきたことがうかがえます。

昭和42年には由良小学校改築に向けての記事、昭和48年には由良郷土資料館の開館記事、平成3年にはKTR丹後由良駅舎完成の記事があり当時の社会状況や由良の歴史を知ることができます。

平成4年度には芸能サークル発表会が初開催され、大正琴、民謡、詩吟、剣舞、舞踊と7サークルが出演され、三百人以上もの観客の声援をうけ非常に盛り上がったようで、文化性の高い元気の由良の様子がわかります。

さらに、山椒大夫伝説とその周辺の記事、澤井市造翁、文学から見る由良の風景、由良の地名、新宮涼庭、北前船、各神社仏閣、如意寺、蜂子皇子と庄内由良との交流、由良ヶ岳、七曲八峠等々由良の歴史と文化が詰まった公民館だよりです。本当に貴重な資料がたくさん掲載されており、由良を知るうえでも重要で貴重な財産です。「由良」を知ることにより、由良の良さや由良の課題もわかり、これらの地域づくりの一助になると思います。

平成14年度には地域の様々な実践活動、身近な生涯学習の場として取り組んでいる公民館活動が評価され、第55回優良公民館文部科学大臣の表彰を受けています。

第1号から177号までのたよりがデータ化されて宮津市ホームページにアップされています。一度検索してみてください。「由良公民館だより」と入力して検索）

投稿依頼記事がたより発行当

初からあり、以前から課題だったようですが、3年間、公民館主事として公民館だよりの編集に関わり、もともと多くの地区の方に楽しんで読んでもらい、興味関心をもってもらうのはどうすればいいのか悩みました。特に10代、20代の方の投稿に期待し原稿依頼をしたり、できるだけ投稿しやすいようにテーマを設けたりと工夫をしましたが、なかなかでした。文書を書くとなると、活字になって残り、多くの方の目に留まり、自ら投稿することに躊躇します。今の私にできることは依頼があったら書く努力をすることです。文書を書くということは自らを振り返り、考えをまとめることにもなります。ぜひ、皆さん、依頼があれば快く承諾してください。また、様々な取組をしておられる近隣の方の情報提供もお願いします。

みなでこの「公民館だより」をさらに充実発展させていきたいと思います。

『由良って こんなもの作れるんだ』 VII

山下 剛敏

今年も、と言ってしまいうドカ雪が、例年通りになりつつある気候変動ですね。昨年は暑い夏が長く、寒い冬の訪れが早く、秋を少ししか感じることができなかつたと思います。四季が崩れ始めているようで、厳しさとししさを感ずるこの頃です。

しかしながら作物にとつて由良地区は、すこぶる良い気候だったのか、我が家の大根を始め野菜が早くから食せるようになり、収穫しないと大きくなる一方でした。作られてる方々は、そんな印象の冬だったのではないのでしょうか？

今回は『青紫蘇』です。

一般的に見かけるのは、「青じそ」と呼んだりスーパーでは

「大葉（オオバ）」と言われる品です。「赤じそ」と品種の系統は葉の色で大きく分けられます。アジアや日本を代表する香味野菜、つまりハーブと言えます。



① 用意するもの

有機石灰（有機だと植付けがすぐにできます）、堆肥（牛ふ

ん・鶏ふんなど）、野菜用の化成肥料、用意できれば他の有機肥料（油かす・魚粉入り肥料など）。

② 苗を用意する

種からも作れますが、栽培期間が少し短くなる苗から植え付ける形で紹介します。ただし、種苗店やホームセンターの店頭が無い場合が多いので、前もって取り寄せの予約をする事をお勧めします。

③ 土壌を作って植え付け

植える場所に、石灰と堆肥をよく混ぜるように耕します。その時に、野菜用の化成肥料も少量と一緒に混ぜてやると生育が良くなり易いです。多くならないよう注意が必要です！ 多く作る必要が無ければ、畝は40〜50cm、高さ15cm程の細い畝を作ります。畝幅の真ん中に、ポット苗がちょうど入る大きさの穴を掘り、ポットの土ごと入れ、

土を周りから寄せて被せ、根元を軽く押さえてやります。そこに水をたっぷりと掛けて下さい。植え付け時期は、五月初旬から六月上旬を目安に。



④ 追肥と水やり

植え付け後、毎月1〜2回肥料を与えてやります。化成肥料であれば、一本に対して軽く一握り（20g程度）円を描いて周りに播いてやります。それを（手袋をした）指で良いので軽く土と混ぜてやって下さい。有機肥料でも大丈夫です。混ぜほぐし

た土を根元に寄せて、軽く押さえて下さい。

水やりの頻度は、少し多い方が良いかもしれませんが、乾燥に弱い作物なので、水持ちの悪い砂質の畑は早め早めにして下さい。

⑤収穫

早ければ七月の上旬には背丈30cm以上になり、摘み取って使用できます。採る紫蘇の葉は、開いて間もない柔らかい物を選んでください。追肥を続けると、およそ二か月近く採れます。



料理としては、脇役での活躍が非常に多く、夏場の食欲増進になりやすいです。家庭料理に使

用する場合、細切りにした物を炒め物やサラダに加えたり、卵焼きに入れても爽やかさが加わります。豚肉巻き料理には、中の素材と一緒に巻いたり、麺類の上に乗せるだけでも食欲が湧きます。大量に使う方法として、紫蘇ジュースにすると、かなり消費します。作り方は色々あるようです。水やソーダ水で割ってジュースにすると、小さいお子さんに好まれたり、食用油と合せ自家製ドレッシングもできます。



◎今回は「人参」です。今回の協力…由良の方々

お正月

今回のテーマ

正月前は、いつもはできないところの掃除をします。窓磨き、玄関ドア、換気扇、仏壇、風呂の排水溝、高い所のほこり払い、冷蔵庫の裏などです。今回してよかったのは、風呂の排水溝でいろんなものが詰まっていた。すっきりして正月を迎えることができました。

ペンネーム 花咲介

以前は、年末に食材を買い込んでおせち料理を作り、重箱に詰めてお正月に家族で食べました。今では、子どもたちが帰省することも少なくなり、おせちを買う事にしていません。厳選素材使用、食の匠監修など和洋折衷のおせち料

理が沢山販売されています。料理にもひとつひとつに願いが込められており、家族で楽しみながらお正月を過ごしています。

ペンネーム へいぞう

今年の正月は、仕事が入りました！ なかなか忙しい正月になりましたが、なんでも『楽しく』が目標になりました。

ペンネーム ?

毎年、元旦の食事は、兄たち家族が帰省し、にぎやかな食事が恒例行事だった。

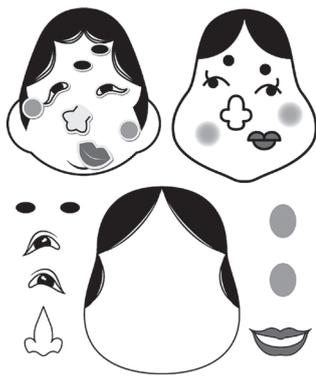
日ごろゆつくりと話せない姉たちとも話ができ、楽しいひと時になる。

コロナ渦で静かなお正月だったが、昨年、久しぶりに兄たちが帰省し、にぎやかな食事会となった。「やっぱり、お正月はにぎやかでないとなあ……」と兄の一言。

「みんなが集まれる場所も必要なんだな」と改めて思った。年に一回でも元気な顔が見れることを思い、掃除におせちづくりと頑張ろうと思う。

ペンネーム おもち

子供の頃、よく目にした年賀状でのフレーズ……『お餅の食べ過ぎに注意しよう』笑
何個食べたか競ってたなあ。
ペンネーム ハチワレちゃん



子供の頃（80年代）のお正月の思い出は、由良にも小さな商店が結構あって、どのお店もお正月はお休みだった。遊びはコマ回しにすごろく、

花札、ゲームウォッチ、それから小学校グラウンドでゲイラカイト、どんだけ高く上げれるか、みんなで競ったなあー
ああ「昭和のお正月」が、ほんと懐かしいな……

ペンネーム ハチマル君

お正月といえば、ご馳走をイメージする。現代においては毎日がいづでもどこでも手に入るご馳走パラダイスの日々であるが、しかし、各家庭の愛情のこもったおせち料理には、格別の味わいがある。日常におせちメニューを取り入れたのだが、やはり正月という行事が来ないと重い腰があがらない。そうは言わず、何か一品添えたいものだ。

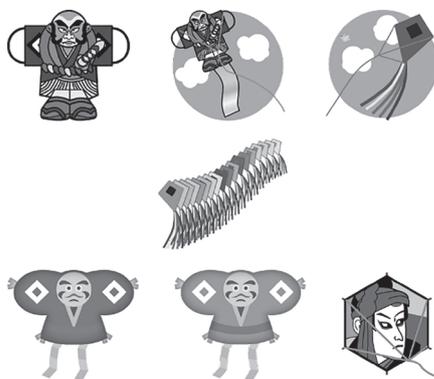
ペンネーム ?

遠くにいる子ども達も帰省して、にぎやかなお正月を迎えることができました。

孫達も大きくなって、よく食べてくれるようになり、いろいろ考えながら食事の用意をしました。

大変でしたが、元気の出る楽しい時間でした。

ペンネーム おばあちゃん



『投稿を読んでみて』

正月には子供達や孫、親戚が集まり、忙しいが楽しく暮らすことができるのが一番いいですね。

そして、一緒に氏神さんや他の神社に今年の幸せを願って参拝している光景が思い浮かびます。

〈宮津市人権標語優秀作品〉

「宮津市内の小中学校の児童・生徒を対象とした人権標語、優秀賞に選ばれた作品」

- にここにこ えがおのはなをさかせましょう 小学1年生
- 君とぼく 同じじゃなくても いいじゃない 小学2年生
- どうしたの? きづける人になりたいな 小学3年生

一年を振り返って

由良オリーブを育てる会

10年目になる今年は、由良地区公民館（里センター）をお借りして、「オリーブサロン」3回と「オリーブ10周年祭」を開催しました。

・オリーブ葉の恵みで健やかに「オリーブサロン」

7月の「茶話会」では、11名の参加者をお迎えし、『オリーブ煎餅』と『オリーブ茶』を一緒に楽しんでいただきました。煎餅のオリーブ葉とオリーブ茶の苦みは、オレウロペイン（ポリフェノールの一種）の苦みで、生活習慣病としての動脈硬化や糖尿病を抑制するとともに、加齢に伴う骨粗しょう症の予防効果が期待できることが明らかになりました。
（出典「筑波大学、宮崎均教授の研究より」）



12月の「クリスマスリース作り」では、6名の参加者がオリーブ枝を巧みに活かし、個性的なリースを一つ一つ手作りしました。同時に、駅カフェ「Anne Shirley」さんから託されたリース枠を使用し、オリーブ枝とオーナメントを組み合わせて素敵なクリスマスリースを制作しました。
剪定したオリーブ枝を再活用することで、資源を大切にしながら

ら楽しいひと時を過ごしました。

2月に予定されている「オリーブご飯講習とオリーブ塩で天ぷら試食」は、残念ながらこの公民館だよりがお手元に届く前に終了しているかもしれません。

参加者には、オリーブ新漬けを使用して太郎塩とオリジナルオイルで炊いた「オリーブご飯」の講習を行い、また、現在開発中の「オリーブ塩」で揚げたての天ぷらを試食していただく予定です。

・地域とともに

「オリーブ10周年祭」
コロナ禍で一時中断していたオリーブ祭りを、10月29日（日）に再開しました。

回覧板を活用したチラシの全戸配布と、地域の皆さんが参加しやすい里センターでの開催により、多くの方に足を運んでいただくことができました。

テイスティングコーナーでは、当会のオリーブオイルの美味しさを知っていただき、バンドのメンバーによる歌と演奏で一緒

に楽しいひと時を過ごしました。

途中で夕立があり催しを中断する場面もありましたが、それでも多くの参加者がオリーブ商品や地元の新鮮野菜、果物を購入し、オリーブご飯や豚汁も召し上がっていただきました。

地域の方だけでなく、地域外からもたくさんの方々に来てい



ただき、オリーブに対する理解が広がる良い機会となりました。令和6年度も楽しいイベントを企画したいと思います。

たくさんの方々のご参加をお待ちしております。

由良オリーブを育てる会
会長 藤本 徳雄

由良が光り輝いていた時代 (23)

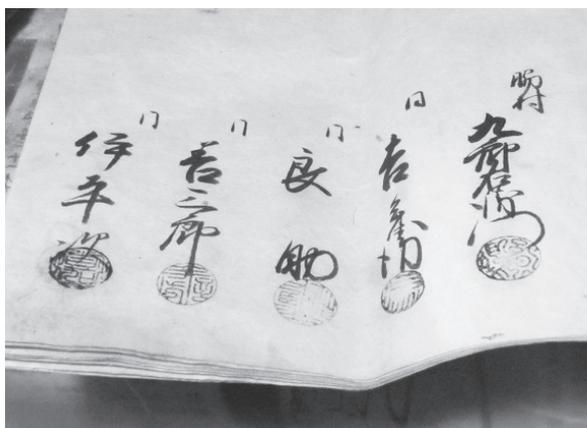
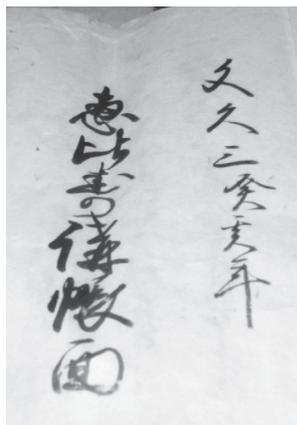
由良の歴史をさぐる会 加藤 正一

江戸時代の大船頭

米屋(坂下) 九郎右衛門家

恵比寿講帳面文久三年(一八六三)乗組員や船頭の規約を定めて船頭一連四十二人が署名捺印したもの、その筆頭署名者が九郎右衛門である。詳細は公民館だより第百六十九号(二〇二〇年七月)又は府立丹後郷土資料館「丹後郷土資料館調査だより」二〇一六年三月二五日参照

恵比寿講帳面文久三年(加藤家文書)



このページ

脇村

九郎右衛門	印
吉兵衛	印
良助	印
善三郎	印
伊兵次	印

とあり、次ページ以降計四十二

人が署名捺印している。船頭九郎右衛門の活躍を新潟県・出雲崎、島根県・浜田の客船帳などにもとづき述べる。



の廻船数が記載されている。出雲崎に寄港した由良の船の殆どは泊屋の客船帳に記載されている。

石州浜田外ノ浦(現島根県浜田市外浦町)

清水家所蔵の「諸国御客船帳」は延享元年(一七四四)より明治三十四年(一九〇四)までの一五八年間にわたり、その客船数は八九〇六艘となっている。客船帳は

- ・船印、帆印
 - ・船名、船籍、船主、沖船頭名
 - ・国別、地域別
 - ・入港、出港年月日
 - ・積荷、登り、下りの別
- などを記載したものを。

出雲崎(新潟県)

江戸時代もつとも佐渡と密接に関わっていた。佐渡の金銀を江戸へ運ぶ北国街道の道筋 七万石天領

熊木屋の「御客上下帳」文化五年正月(一八〇八)〜明治十九年(一八八六) 泊屋(佐野家)弘化三年(一八四六)〜明治二十年(一八八七)

船頭九郎右衛門は

出雲崎の泊屋の御客船帳に永福丸(栄?) (磯田家?) 米屋 九郎右衛門 安政六年八月一六日(一八五九)と記載されている。

又浜田の清水家「諸国御客船帳」

には

米屋（磯田）四郎左衛門持ち船

「磯部丸」

天保 三年六月（一八三二）

長兵衛・九郎右衛門様

磯部丸は七〇〇石九人乗りの

記載がある。

「永寿丸」
文化十四年五月（一八一七）
助五郎・長兵衛・惣太郎・皆蔵
九郎右衛門様 下り入津

「磯部丸」

文政 六年九月（一八二三）

長兵衛・九郎右衛門様

「永寿丸」

文政 七年六月（一八二四）

助五郎・長兵衛・惣太郎・皆蔵

九郎右衛門様 登り入津

「磯部丸」

文政十二年六月（一八二九）

長兵衛・九郎右衛門様

「磯部丸」

天保 二年十月（一八三一）

長兵衛・九郎右衛門様

九郎右衛門は永寿丸、磯部丸
両船に記載されて乗り組んでい
たことが解る。又この時点では

複数の乗組員の一人であり、船
頭ではなく幹部と思われる。

他の乗組員と違い、両船にた

びたび乗船していることを考え

ると全体を取り仕切ることを船

主米屋四郎左衛門より任されて

いたのではないだろうか。

又乗船記録に乗船年度が飛ん

でいるが、この間船に乗ってい

ないことはなく、これらの港に

寄港しないと考えるのが妥当

と考える。

出雲崎安政六年（一八五九）

記載には九郎右衛門だけで、こ

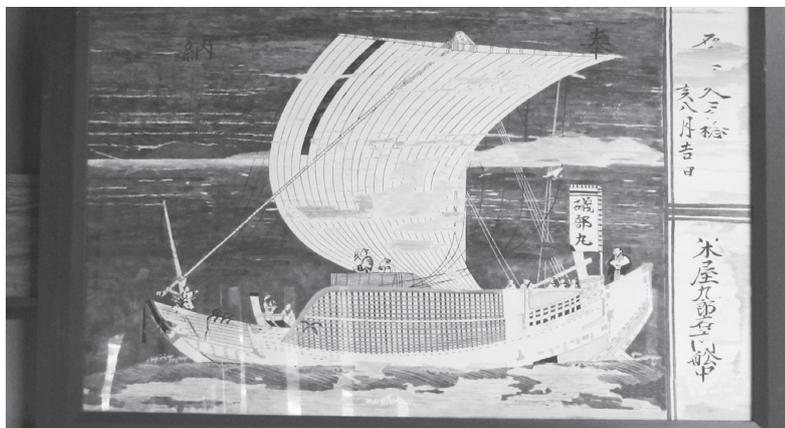
の時代には沖船頭になっていた。

金毘羅神社に米屋九郎右衛門船

中から文久三年八月（一八六三）

奉納された

船絵馬「磯部丸」



米屋四郎左衛門家の船頭であり

米屋を名乗るのが一般的のため

米屋九郎右衛門と名乗る。

由良の歴史 第2号

（由良の歴史をさぐる会

一九八一年一二月発行）

「由良船頭衆その一」

小谷一郎著

往來手形之件

七〇〇石積廻船 壹艘

栄福丸沖船頭

九郎右衛門

水主共九人衆

右之廻船諸国為賣買廻船致候

何卒津々浦々無遅延御通シ可

被下候

奉申上候仍而往來手形如件

弘化三年正月（一八四六）

大阪 島屋重治郎

津々浦々

御役人御衆中

大森清四郎氏所蔵「磯田家文書」

この資料からも弘化三年（一
八四六）には沖船頭になってい

ることが解り、しかも大阪の船

主の船頭である。出雲崎の客船

帳に記載されている安政六年八

月一六日(一八五九)には由良の米屋(磯田家)の船に船頭として従事している。

江戸に行った船乗り

(舞鶴市史)

文政十二年(一八二九)田辺藩は江戸藩邸類焼の時、国元から木材を運搬するに用いられたのは由良村の米屋四郎左衛門手船「磯部丸」とある。この時代は長兵衛船頭で九郎右衛門は幹部(知工?)として乗り組み現在知り得る資料上初めて江戸に行った船乗りと思われる。

天保の大飢饉に際し、福知山藩では幕命により備荒用貯穀を天保五年(一八三四)と同八年の二度江戸へ回送したが、この御用にも米屋の持ち船があつた。回米に関する同四年の福知山藩からの聞き合わせに。米屋は船頭の一札を付して返答し、運賃等の交渉を行っている。

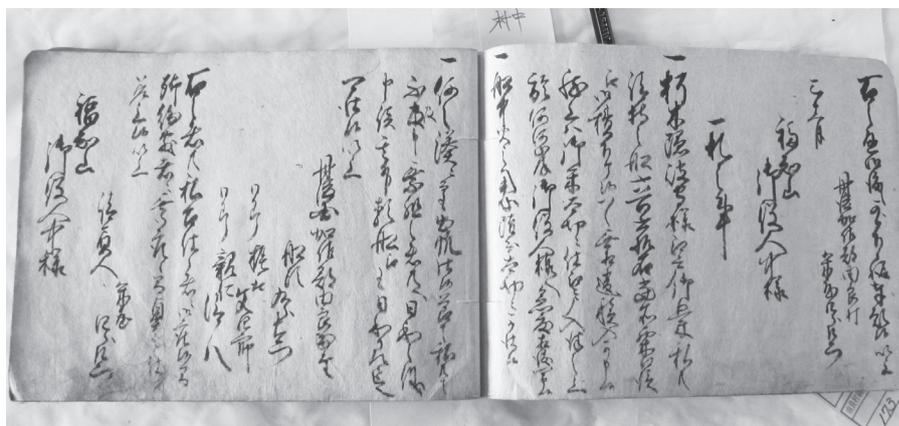
詳細は公民館だより第一七六号
令和四年十一月発行 参照

船頭の一札

(天保四又は五年(一八三四))

(磯田家文書)

府立丹後郷土資料館蔵



翻刻 (舞鶴郷土資料館学芸員)

小室智子氏)

一札之事(船頭の一札)

一朽木隠岐守様江戸御廻米私共請持之船六百六十石当所栗田湊江御積下ヶ候ハバ無相違積入可申候然上ハ御米大切ニ仕江戸入津之上於何々岸御役人様へ急度相渡可申候

一船中火之用心随分大切ニ可申候

一何之湊ニ而モ出帆仕候節者私共者不及申乗組之者共へ日和之儀申談其外類船江モ日和見定可仕候以上

丹後国加佐郡由良村生

船頭 九郎右衛門

同断 舵取 文四郎

同断 親仁 清八

右之者共私召使之者ニ御座候間聊紛敷者ハ乗御座候間奥印仕差上候以上

請負人米屋四郎左衛門

福知山御役人中様

札之事を要約すると(加藤流)

一朽木隠岐守様の米を江戸に私共の六百六十石船で送るのを請負、栗田港へ運んでもらえば、間違いなく御米積込み、大切にし、江戸湊へ入港したら指定の岸で御役人様へきつと御渡しします。

一船の中では火の用心を心掛けます。

一どこの港に於いても出港する時は私ども乗組員だけではなく、他の船にも天候の情報を入念に注意します。

丹後国加佐郡由良村生

船頭 九郎右衛門

同断 舵取 文四郎

同断 親仁 清八

右の者共は私の召し遣うものです。いささかでも紛らわしい者は乗せません。捺印のうえ差し上げます。以上

請負人 米屋四郎左衛門

福知山御役人中様

宮津市北前船関連資料調査

研究報告書

平成二五(二〇一三)・二六(二〇一四)・二七(二〇一五)年度
宮津市受託研究

研究成果報告書

研究代表者 藤本 仁文 著
(京都府立大学文学部准教授)

平成二八(二〇一六)年三月
史料は由良の船頭である九郎右衛門が難船したために作成されたものである。

【史料一四】

一札

沢手米

白米

油

帆

加賀芋綱

市波

一、

一、

右 右御取揚被下候、難有仕

合ニ奉存候、然ル処沢手米蔵入

其俣仕置候てハ痛申候二付、詰替仕度、白米之儀ハ別て痛強く御座候二付、守護仕度、其上乗組中飯米ニも差問申候間、御取捌中勝手ケ間敷儀奉恐入候へ共、御貸渡被仰被下候様、尚又油之儀も手入仕度、濡帆綱類も手入不候てハ痛ミ申候間、是又同様御免被仰付候様御願申上候処、願之通被仰付、難有仕合ニ奉存候、則一ツ書之品々受取申候処粉無御座候、仍て連印一札差上申処如件

嘉永三戊八月(一八五〇)
丹後国加佐郡由良庄

直乗船頭 九郎右衛門

前書之通船頭「」被仰付、船頭儘ニ受取申処相違無

御座候、仍て連印仕差上申候、

以上

赤間関廻船宿 油屋仁右衛門

同小宿 村屋徳右工門

(赤間関は下関市赤間町附近)

この資料は「元結屋・三上家文書」である。この文書が何故元結屋・三上家に残されていたのか？ 又この資料により今まで知られていない事実が明確になった。

九郎右衛門船持ち？

丹後国加佐郡由良庄

直乗船頭 九郎右衛門

一この直乗船頭と云う意味は船主が船頭として乗り組んでいることを意味している。これが事実であればこの時代、九郎右衛門は単に船頭ではなく船

を持った船主でもあったことになる。(雇われ船頭は沖船頭と云われる。)

前記

前記

「由良の歴史 第2号

「由良船頭衆その一」

小谷一郎著

往来手形之件 栄福丸沖船頭

此の時は雇われ船頭である。

一その上乘っていた船が赤間関(下関市)で難船したと云う

事実は初めての情報である。

一沢手米、は波をかぶり濡れた

米の事であり、白米とあるのは濡れなく残った米がある事を意味している。嵐により難

破したのではなく、波をかぶり

り赤間関にたどり着いた可能性

があることが解る。

当時の赤間関の嵐の記録は、「日

本の天災地変」によると

嘉永三年(一八五〇)

七月二十一日近畿・東海道諸国

大風雨

八月七日 筑前・紀伊・尾張諸国

大風雨

九月二日 讃岐、伊勢、丹後並

大風、洪水

近畿諸国 大風雨・洪水

嘉永三年は天候が悪かった事が

分かり、八月七日(新暦一八五〇

年九月十二日)まさに場所、筑前

(福岡県)から考え、九郎右衛

門船が赤間関(下関市)難船にな

った嵐であることが考えられる。

令和5年の 由良ヶ嶽登山

登山証明書

1年間の発行枚数は401枚でした。由良からの登山者の数ですが、この証明書は各自で持って帰るため、半数の方は持って帰っていないのではないかと思います。

そうすると1年間に1000人、由良からの登山ルートで登っていることとなります。

この環境を上手に利用すれば、由良地区の活性化に大きく貢献できるのではないのでしょうか。

令和5年度で55回を迎えました。毎年恒例となった由良ヶ嶽登山は少し前まで幼・小・中学生に地区の大人達が付き添いながら登る光景が当たり前でした。現在では、地区外の方が由良住民を上回る傾向にあります。これは悲観ではなく、それだけ由

良ヶ嶽登山事業が定着してきた証ではないでしょうか。喜ばしいことです。

山小屋に置かれた登山記録を見ますと遠く関東・中部・四国・北陸から登山されています。近畿では大阪・京都市内・丹後一円では舞鶴・京丹後・与謝野町・綾部・宮津が並んでいます。

登山者の記録を抜粋させてもらいます。

「楽しかったです。東峰・西峰共にパノラマ大展望でした。」
「素晴らしい眺めに感動、いい山旅が出来ました。ありがとう。」
「急登でしんどかったけど、景色はとても良かったです。」

【お知らせ】

3月下旬に西峰の高木を伐採し、天橋立がよく見えるようになりますので、是非、登ってみてください。毎年4月29日は由良ヶ嶽登山の日です。由良地区公民館主催で100人ほどの方が登られます。29日の天候が悪ければ5月3日に延期です。

〈編集後記〉

今、2月1日の京都新聞1面に目を通している。能登地震今日1か月 避難1・4万人長期化、住居、インフラ復旧急務、死者238人、感染症警戒の記事が目飛び込んでくる。

1万4643人が避難生活を送り、うち9557人が今も体育館や集会所に身を寄せている。死者は238人、うち15人が災害関連死である。早く安心して住むことが出来る場所にとと思う。

府の施策、木造耐震の補助拡充の記事もあった。多くの住宅が倒壊した背景に、耐震化の低さがあつたと指摘されている。阪神大震災では、耐震基準が現在より緩かった1981年(昭和56年)以前の「旧基準」木造住宅の倒壊が相次ぎ、死者の約9割が圧死だった。旧基準の木造住宅にお住まいの方は、補助金を活用して耐震化を考えてみてはいかがでしょう。

又、由良地区は奈良海岸道路が被災し、通行止めになったときの対策を考える必要がある。由良地区住民の繋がりが以前と比べると希薄になっているようだが、防災のことをみんなで考える必要性を感じている。

千坂記

